

平成23年4月25日
国土交通省東北地方整備局
小名浜港湾事務所

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」による港湾周辺の津波調査を実施

～津波による浸水高は、小名浜港 約5m、相馬港 約10m～

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」により被害を受けた相馬港と小名浜港について、「独立行政法人 港湾空港技術研究所」及び「国土交通省 国土技術政策総合研究所」が津波による浸水高及び遡上高を調査しました。

調査結果の概要は以下の通りです。（調査結果の詳細は別添資料）

- ・調査実施日 平成23年4月6日～7日
- ・調査実施者 独立行政法人 港湾空港技術研究所
国土交通省 国土技術政策総合研究所
国土交通省 東北地方整備局 小名浜港湾事務所
- ・調査結果 相馬市 相馬港：約10m（浸水高）
原釜尾浜海水浴場：約12m（遡上高）
新地町 釣師浜漁港：約16m（遡上高）
いわき市 小名浜港：約5m（浸水高）
中之作港：約5m（浸水高）
豊間地区：約8m（浸水高）

※調査の結果、小名浜港及び相馬港では防波堤による津波低減効果があったと推察されます。

【問い合わせ先】

国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所

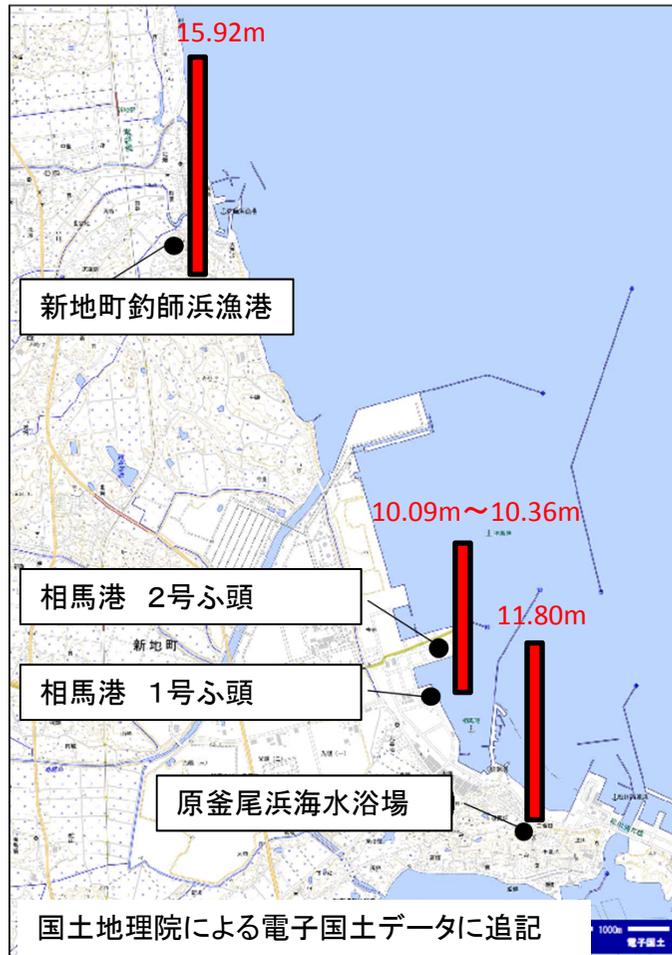
前任建設管理官 佐藤 幸喜 TEL：0246-53-7103

独立行政法人 港湾空港技術研究所 アジア・太平洋沿岸防災研究センター

上席研究官 富田 孝史 TEL：046-844-5052

<http://www.pari.go.jp/info/tohoku-eq/>

相馬地区 (H23.4.6調査)



相馬港 1号ふ頭 10.36m(浸水高※1)

相馬港 2号ふ頭 10.09m(浸水高※1)

原釜尾浜海水浴場 11.80m(遡上高※2)

新地町釣師浜漁港 15.92m(遡上高※2)

※1 浸水高:通常時の平均海面潮位からの浸水の高さ(標高)

※2 遡上高:海岸から内陸へ津波がかけ上がった高さ(標高)
(津波の痕跡等から高さの調査を実施)

相馬港では、沖防波堤が津波により傾斜したり水没していますが、港内側の防波堤はほとんど被災が認められなかったことから、沖防波堤による津波低減効果があったと推察されます。



相馬港沖防波堤の被災状況

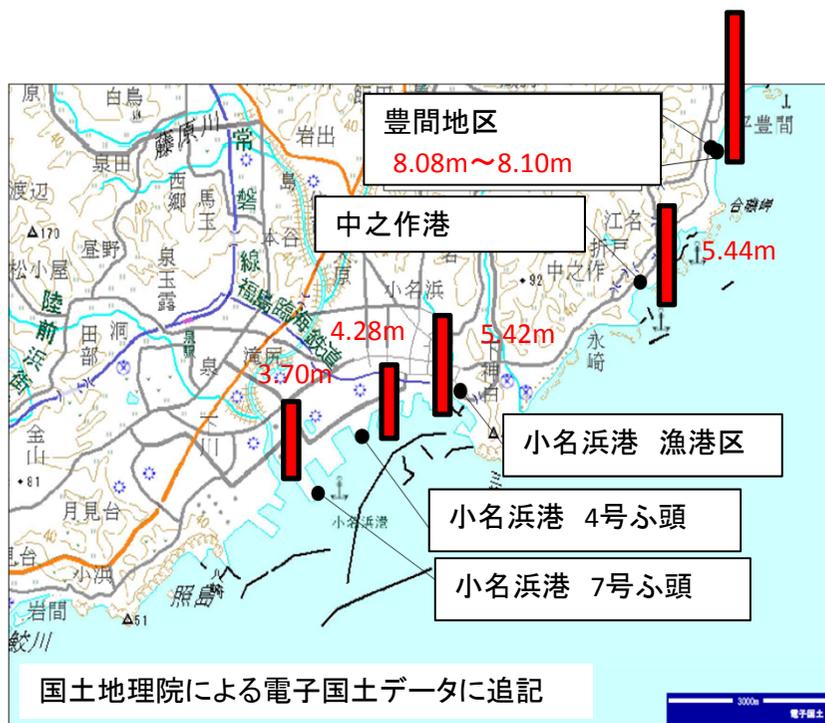


原釜尾浜海水浴場奥の津波遡上境界



相馬港2号ふ頭上屋の被災状況

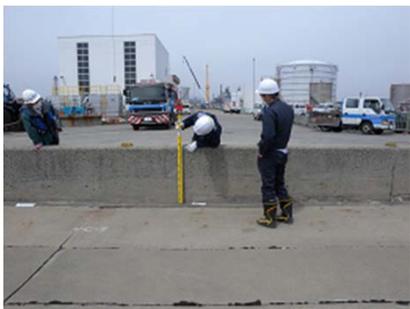
いわき地区 (H23.4.7調査)



小名浜港 漁港区	5.42m(浸水高※1)
小名浜港 4号ふ頭	4.28m(浸水高※1)
小名浜港 7号ふ頭	3.70m(浸水高※1)
中之作港	5.44m(浸水高※1)
豊間地区	8.08~8.10m(浸水高※1)

※1 浸水高:通常時の平均海面潮位からの浸水の高さ(標高)
(津波の痕跡等から高さの調査を実施)

小名浜港の北側の豊間地区では、約8mの浸水高を引き起こす津波が来襲しているのに対し、小名浜港内では、3~5mの浸水であったことから、防波堤による津波低減効果があったと推察されます。



小名浜港調査状況



小名浜港漁港区被災状況



豊間地区被災状況